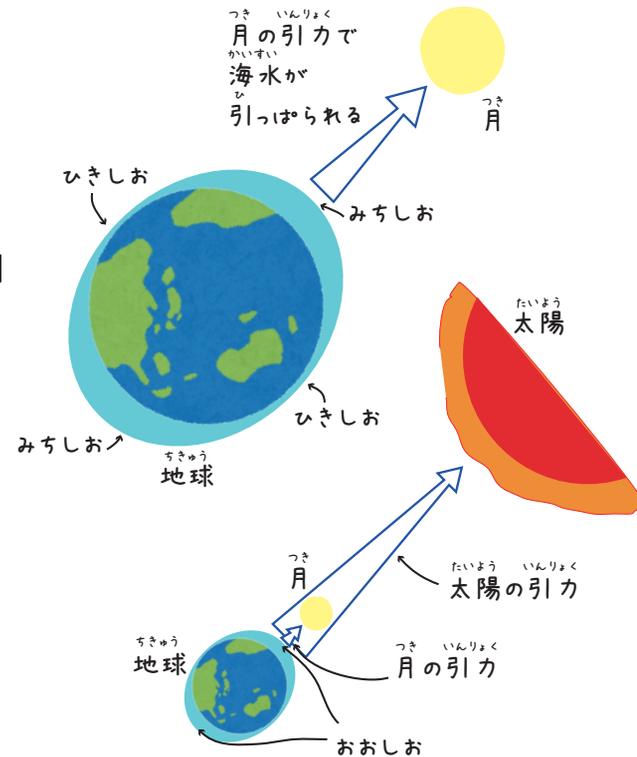




1 しおのみちひき

月に近い海では、月の引力で海水がもり上がり、「みちしお」となります。また、ちょうど反対側では海水がとり残されて、こちら側も「みちしお」になります。そして、2つの「みちしお」の間では、海水がへるので「ひきしお」になります。太陽の引力は、月よりずっと遠いため、月の半分くらいですが、太陽と月と地球が一直線にならなるとき（新月や満月の時）、2つの引力が合わさって、みちひきが一番大きくなります。このようなときを「おおしお」とよんでいます。



2 モクスガニ

モクスガニは、川の中流の水のきれいな場所がすきなカニです。サワガニとはちがいで、川の上流にはすんでいません。秋になると川をくだって河口まで行って交尾をします。メスはうんだ卵をおなかでかかえて育て、幼生を海にはなちます。幼生は海で育って変態し、子ガニになると川をさかのぼって中流をめざします。



3 ウミガメのエサ

ウミガメはプラスチック製のゴミを海藻やクラゲなどのエサと間違えて、食べてしまいます。お店などで使う買い物袋が、海中を泳ぐクラゲとよく似ているからです。プラスチック製の袋は分解されず、胃の中にいつまでも残るので、ウミガメは新しいエサが食べられなくなり、時には餓死してしまうこともあるのです。

